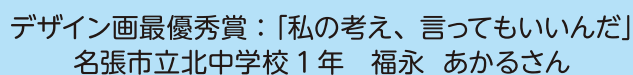


## 第42回 少年の主張三重県大会



 **公益財団法人三重こどもわかもの育成財団**  
**伊賀地区中学生のメッセージ実行委員会**  
**独立行政法人国立青少年教育振興機構**

# はじめに

中学生のメッセージ（少年の主張三重県大会）は、昭和54年の国際児童年を契機に始められたものです。中学生の皆さんが日常生活の中で日頃考え、感じていることなどを広く社会に発表する場として回を重ね、本年度で42回目です。

今回の中学生のメッセージは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、通常とは異なり残念ながら規模を縮小した形で開催しました。

応募者数としては、県内71の中学校から9,774点にのぼる多くの作文が寄せられました。休校措置が取られる中で、これもひとえに各中学校や青少年育成市町民会議の皆さまの多大なご協力をいただいた賜物と感謝いたします。たくさんの中学生の皆さんに関心を持っていただきましたこと、主催者として、大変嬉しく思います。

今回寄せられた発表の一つ一つは、中学生の皆さんそれぞれの考えや感じたことを表したものです。主張する内容や表現もそれぞれ異なります。本来であれば、たくさんの中学生の皆さんに発表していただくのが本筋ではありますが、今回は、その代表として13名の方々に発表していただきました。

発表者の皆さんは発表することで自分自身を見つめ直すきっかけとなり、自信を深め、今後につながる機会になったのではと感じています。

一方、私たち大人にとっては、中学生の皆さんのみずみずしい感性や真っ直ぐな気持ちを受けて、あらためて家庭や地域社会で子どもを支え、応援することの大切さを感じ、決意をあらたにする機会となりました。

本報告集は、県大会発表者13名の主張と全国大会内閣総理大臣賞受賞者の主張を収録したものです。多くの方々にお読みいただき、中学生の想いや考えに関心を持っていただければ幸いです。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、実行委員会で事前準備や運営を行っていただきました伊賀地区青少年育成市民会議の皆さまを始め、多くの皆さまにご支援・ご協力をいただきました。あらためて厚くお礼を申し上げます。

今後も、「中学生のメッセージ」が、中学生の皆さんにとって輝ける思い出となるよう、地域の皆さまと共に開催していきたいと考えています。

どうぞ今後とも皆さまのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和3年1月

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

理事長 福田 圭司

# 中学生のメッセージ 2020

(令和2年8月29日 伊賀市文化会館)

## 第42回 少年の主張 三重県大会 中学生のメッセージ2020

主催：公益財団法人三重こどもわかもの育成財団・伊賀地区中学生のメッセージ実行委員会・独立行政法人国立青少年教育振興機構 共催：三重県・三重県青少年育成市民会議連合会 協力：三重県内青少年育成市民会議



発表者と審査委員の皆さん



# 目 次

はじめに

## ◆大会発表作品

### 最優秀賞

輝ける舞台まで 鈴鹿市立平田野中学校 3年 松本 未空 …… 1

### 優秀賞

同調圧力による生きづらさをなくすために  
鈴鹿市立白子中学校 3年 辻 彩佳 …… 3

全ては言葉から始まる 桑名市立正和中学校 3年 中野 愛里 …… 5

インクルーシブな社会へ セントヨゼフ女子学園中学校 3年 平田 灯梨 …… 7

### 優良賞

あいさつからつながる地域の輪 多気町松阪市学校組合立多気中学校 1年  
市川明香里 …… 9

一人ひとりの行動で 名張市立名張中学校 2年 窪田 りか …… 11

私の将来 三重大学教育学部附属中学校 3年 小出 帆華 …… 13

「協力し合う」大切さ 名張市立桔梗が丘中学校 1年 坂本 脩悟 …… 15

心のバリアー 障がい者は特別じゃない  
津市立南が丘中学校 2年 柴田 晴希 …… 17

地域とつながるあいさつ 鈴鹿市立白子中学校 1年 辻 舞衣 …… 19

ごみのポイ捨てから考えたこと 伊賀市立上野南中学校 2年 林 あむ …… 21

知ってほしい、理解してほしい 松阪市立飯南中学校 3年 山本柚鈴葉 …… 23

守ろう我が星 四日市市立港中学校 3年 吉田 菜月 …… 25

◆審査委員の皆さま …… 27

◆審査委員の講評 …… 28

## ◆大会概要

1 応募の状況 …… 33

2 地域優秀賞受賞者一覧 …… 35

3 学校奨励賞受賞校一覧 …… 37

◆大会メモリアル …… 38

◆中学生への応援メッセージ …… 41

◆協賛企業・団体紹介 …… 42

## ◆参考資料

1 中学生のメッセージ2020（第42回少年の主張三重県大会）作文募集要項 …… 43

2 令和2年度内閣総理大臣賞の紹介〔少年の主張全国大会 ～わたしの主張2020～〕 …… 47

※大会発表者の作品は、誤字・脱字以外は原文のまま掲載しました。





## 最優秀賞 輝ける舞台まで

鈴鹿市立平田野中学校 3年

松 本 未 空

この春、新型コロナウイルスの感染のため学校が休校になり、私たちは授業も部活動もできなくなりました。学校が休みになると分かったのは、二年生もあと少しで終わるという時でした。テレビで「全国の学校が休校になる」と流れた瞬間、たくさんの友だちから連絡が来ました。誰もが動揺しているんだと感じました。私ももちろん驚いたし、嫌だなと思いました。私にとって正直、学校が休みになったことよりも、部活動がなくなってしまったことがとてもショックでした。

私の大きな夢は「だれからも応援される、日本を背負う陸上競技者になること」です。その大きな夢の一步として、今年の夏、地元三重で行われる中体連の全国大会での優勝をめざしていました。しかし、すでに、この冬から部活動、遠征などが徐々に減少されていきました。「それでも」と全国優勝を目指していました。去年は八百メートルで全国四位になることができました。「二年生ながらよく頑張った」と多くの方から称讃のお声をいただき、とても嬉しかったのを覚えています。たくさんの人の声援で全国四位という、言葉では伝えきれないほど素敵で高い所に立つことができ、たくさんのことを学びました。だからこそ地元三重で全国優勝することを、全力で追いかけていました。

しかし、その夢、その時の私にとってとてつもなく大きな夢を叶えることができなくなりました。「全国大会中止」という報道が流れていました。信じられない報道、信じたくない報道、全国を目指している人達はみんな思ったことと思います。

そんな私たちを見て、「コロナだからしょうがない。」「高校があるんだからいいじゃないか。」などの言葉をかける人もいます。だけど「しょうがない」その言葉だけではおさえられません。中三での三重での全国大会は私にとって一生に一度だったのです。今年の夏はもう自分が思い描いていた夏にはならないんだと悟りました。その日から練習をしても「何のために走っているんだろう。」と何回も何回も考えました。心の底では「次の舞台で輝くために。」と思っても、すぐに立ち上がることは難しかったです。

そんな時に、私とあまり関わりのなかった先輩から一通のメールが来ました。その内容はとても濃いものでした。「みくちゃんの走りを見ると自分も頑張れる、何度も何度もみくちゃんに助けられた。」など私にとってとても嬉しくて、心が救われるような内容でした。他にも、私を支えてくれ、勇気づけてくれるメールがたくさん届きました。本当に嬉しかったですし、もっと自分が頑張らないと、と改めて思いました。

|               |      |
|---------------|------|
| ★ 部活動や学校外活動   | 陸上部  |
| ★ 好きな科目       | 体育   |
| ★ 好きなことや好きなもの | 走ること |
| ★ 将来の夢        | 陸上選手 |

この一年はこれからまだどうなっていくか想像も予想もできません。大切な人が急にいなくなるかもしれない、自分の挑戦する場が全てなくなるかもしれない。そんな中、前向きにただひたすら進むことはとても難しいです。しかし、今、戦ってくださっている医療関係の方々、星野源さんのように音楽で世界の人を元気づけようとしてくれている人たち。自分も苦しい中で、他の人のことを考え行動できることの素敵さに気づかされました。

私は、この期間であるからこそできること、学べることがあると信じ、前向きに自分なりに心と体を成長させていきたいと思いました。そして、この経験は「だれからも応援される日本を背負う陸上競技者になる」という私の大きな夢を叶えるために、きっと役立つ日が来ると思います。この休校を全国大会中止という事実を、少しでもプラスに変えられるように、私はこれからも努力し続けていきます。





優秀賞

## 同調圧力による生きづらさをなくすために

鈴鹿市立白子中学校 3年

辻 彩 佳

「現代社会を一言で表すなら？」ときかれたら、あなたはどのように答えますか。グローバル化、高度情報化社会、少子高齢化……。わたしならこう答えます。「生きづらさ。」わたしはある出来事からなぜ生きづらさがうまれるのか考えるようになりました。

ある日、クラスの話し合いで二つの意見が対立しました。クラス全体としての意見を決めるため、最初に対立する二つの意見で多数決をとり、ディスカッションを行ってから、もう一度多数決をとりました。結果は一回目の多数決で少数派に賛成していた人の中から二回目の多数決で多数派に賛成する人が増えたことで、それがクラスの意見になりました。

最初は受け入れにくいと思えた相手の意見も、理由や詳しい説明を聞くと納得できた、という経験は誰もががあると思います。このような理由で多数派の意見に変えた人も一定数いたことでしょう。

しかし、わたしはその場の雰囲気から「大人数が賛成しているから」という理由で意見を変えた人も少なからずいたのではないかと推測しました。積極的に議論しようとする、ごく一部の人のよって話し合いは進み、多くの人は互いの顔色をうかがいながら参加しているように見えました。わたしは自分の意見を出しづらい雰囲気があることに息苦しさを感しました。

わたしの感じた息苦しきの正体、それは同調意識の圧力だと思います。一歩引いてあえて自分の意見を押し込めるのは、衝突を防ぐために時に必要でもあります。しかし、行き過ぎた同調意識は「こうしなければならない」といった無言の圧力になり、「そこから外れたものは除外しよう」といった排他的な空気を生みだします。その排他的な空気こそ、生きづらさの原因であるとわたしは考えます。

同調圧力はわたしたち一人ひとりが生みだすものです。一人ひとりが自分で考え、行動に移すことができたら、同調圧力が生まれたとしても、そのまま流されることはないはずです。同調圧力がなくなるのは、大多数に抗うより流される方が楽で安全だと考える人が多いからだと思ひます。しかし、立ち向かわなければならない大きな波が来た時に戦えない、それが戦うべき相手なのか判断できない、そんな危険も潜んでいます。

わたしは相手の言ったことが自分の考えと合わない時、笑ってごまかすことがよくあります。以前、クラスメイトと喋っていると、友達の悪口になり、「～だよな？」と同意を求められました。反論しようとしたその時、「悪口を否定することでクラスメイトに嫌われたら。」そんな考えが頭をよぎりました。わたしの口から出てきたのは「そうなんだ」という、悪口を肯定も否定もしない中途半端な

|               |             |
|---------------|-------------|
| ★ 部活動や学校外活動   | コンピュータ部・生徒会 |
| ★ 好きな科目       | 国語・英語・音楽    |
| ★ 好きなことや好きなもの | 読書・ラジオを聞くこと |
| ★ 将来の夢        | 言葉に関わる仕事    |

言葉でした。友達を裏切った罪悪感と、自分に対する嫌悪感でいっぱいになり、悪口を否定しないことは肯定しているのと何も変わらない、ということに気づきました。この出来事からわたしは、一人ひとりが小さなことでも自分の意思を言葉にして伝えることが、同調圧力をなくすための第一歩になると考えました。

また、それと同時に社会全体で「みんなちがう」ことがもっと認められる必要があると考えます。現代日本では「みんな一緒」であるのが正しいとされる風潮が強いですが、わたしたち一人ひとりとはたとえ一時的に集団だったとしても本来は別々の個人だからです。

金子みすゞの詩『わたしと小鳥とすずと』に「みんなちがってみんないい」という一節があります。この詩からわたしは、違いを排除するのではなく、認め合い、共存することが大切だと考えました。「みんな一緒」ではなく、「みんなちがう」からこそ、世界は豊かになります。一人では思いつかないアイデアが違いのぶつかり合いで生まれ、不可能とされていたことでも互いの長所を生かし、短所を補えば、実現することだってあります。

同調圧力は何も生みません。一人ひとりの行動で、多様な個性が認められる社会をつくっていきませんか。







優秀賞

## 全ては言葉から始まる

桑名市立正和中学校 3年

中野愛里

私の祖母は足の障害一級だ。祖母は若い頃事故に遭い、その後遺症で首の骨が壊死し、足が不自由になった。その後、私が幼い時に治る見込みがなくなり、車椅子生活となった。母は祖母の介護をするために仕事を辞めた。祖母は気性が荒く、母に一段と口うるさく当たるようになった。しかし、祖母は私には甘く、穏やかで優しい口調になる。だから母は私に、祖母の介護を頼むようになり、家族の仲を考えると、私は断れなくなった。

母も歳をとり、私は、腰も痛めた母だけに介護を任せておけないため、できる限りのことはやろうと思った。中学生になり、体力もつき、夜や休日はベッドへの移動やおむつ交換、買い物に行くときは、車への移動介助ができるようになった。すると祖母は、

「ありがとうな。助かるわ。愛ちゃんが来てくれると嬉しいわ。バカ娘とは大違いや。」

と私を誉め、母の悪口を言う。母が祖母の世話をするときには、祖母の怒鳴り声ばかりで、

「あー下手くそ!もっと上手にやれ!」

と近所迷惑なくらい大声で暴言を吐き、私が止めなければいけないため、気が休まらない。

ある日、祖母が母に、

「障害年金入ってきたら、どうせお前が使うんやで、介護して当たり前やろ!」

と言いだした。私はショックだった。こんな風に思われているのかと思うと、じっとしていられなかった。「好きで介護してるわけじゃない!」「お金目当てでやってるわけじゃない!」と心の中で叫んだ。家族だから、放っておけないからやっているのだ。母だって自由が欲しいはずだ。出かけられず、すぐに呼び出される母の気持ちも考えずに、酷いと思った。一生懸命介護してくれる人に失礼だ。

『親しき仲にも礼儀あり』ではないか。私は、

「母ちゃんにもありがとうって言ってみなよ。母ちゃんが病気になったら本当に困るよ。」

と祖母に言ってみたが、祖母は、

「あいつが悪い!痛いやり方するからや!」

と拒否し、全く聞く耳を持たなかった。どうすれば良いか悩んでいた時、丁度、祖母の世話をしてくださる、障害者支援センターの木村さんに相談することができた。木村さんは、

「大変やね。お婆ちゃんと話してみるね。」

と言ってくださった。そして、木村さんが、

|               |                 |
|---------------|-----------------|
| ★ 部活動や学校外活動   | 卓球部             |
| ★ 好きな科目       | 数学              |
| ★ 好きなことや好きなもの | 歌をうたう、きく・犬と遊ぶこと |
| ★ 将来の夢        | マルチタレント・気象予報士   |

「娘さんに感謝しやなあかんよ。お嫁さんやったら、喧嘩したら二度とやってくれないよ。娘さんがやりたいことを削ってお世話してくれてるんだから、そこはありがたく思わないとだめだよ。」  
 と言ってくださった。しかし、祖母は、  
 「娘はあかん。孫はよくやってくれるし、優しくてええ子なんや。」  
 と言った。それを木村さんが、  
 「愚痴ばかり言ったら、誰も何もやってくれなくなるよ!」  
 と少し強い口調で言い返してくれたので、  
 「感謝はしてるよ。世話ばかりで苦労させて。」  
 と祖母は涙ながらに言った。木村さんが、  
 「言葉で言わないと伝わらないからね。お孫さんと同じように娘さんと接してあげてね。」  
 というと、祖母はうなずいた。

数日経ち、母が祖母を寝かせに行った時、いつもなら何か言うはずが無言だった。母が帰ろうとすると、祖母が「ありがとうな」と一言発した。母は少し照れながら、「そんなええわ、別に…」と微笑んだ。

このように、『ありがとう』の一言で、わだかまりが消え笑顔になれる。こうなれることは、とても素晴らしいことだと思う。明日もしよう!という気持ちになれることは、人間にとってとても大切な感情である。たとえ障害があっても、言葉の暴力はいけないし、暴言で苦しめてしまうこともあると理解して欲しい。他人はもちろん、身内だとしても、ありがたみを忘れず、感謝の気持ちを言葉で表現することは大切だ。

介護については、精神面や肉体的な疲労など、悩みは尽きないが、ありがとうの言葉で笑顔になれるなら、コミュニケーションのとり方も、とても重要なことだろう。それは、介護する側、される側の未来のため、幸せのために。





優秀賞

## インクルーシブな社会へ

セントヨゼフ女子学園中学校 3年

平 田 灯 梨

「障がい者」というと、あなたはどんな人を想像しますか。耳の不自由な人、目の不自由な人、手足の不自由な人など、さまざまだと思います。しかし、私が一番に思い浮かべるのは、「自閉症」です。私の兄は自閉という障がいを伴っています。現在高校三年生ですが、はっきりとした言葉を話せず、字も書けません。そしてアンパンマンが大好きです。まるで、一才児か二才児のような兄ですが、たまにすごいなと思う一面があります。例えば、遠く離れている祖父母の家への行く道順を覚えていたり、どこにしまったか家族がわからないものを知っていたりします。そういう場面では、私や他の人よりもずば抜けた能力を発揮します。

私たち健常者は兄のような障がい者を差別するときがあります。中には軽い精神障がいがあるだけで就職できなかったり、障がい児ということで近所の友達と同じ学校では勉強できなかったという人もいます。インターネットや本などで調べてみても、席は空いているのに、「混雑時には車いすの方はご遠慮いただいています」と受け入れてもらえない飲食店や、障がい者は火事が心配だから仲介できないという不動産屋など数えきれないほどの差別が見つかります。

私はどうしてこのような差別が起きるのか自分なりに考えてみました。きっと「障がい者はいない方が良い」「障がい者は普通とは違って可哀想な存在だ」といった考え方が社会に根付いているからだと思います。

私は、兄のことを「普通とは違うから可哀想」なんて思ったことはありません。人はそれぞれ得意なこと、苦手なこと、好きなこと、嫌いなことがあるように、兄は覚えることが得意で、人と話すことが苦手、アンパンマンが好きで、いつもと違う変化が嫌いだけです。人はみんな違った個性があり、普通なんてないのだと思います。みんなが苦手なことを克服しようと努力するように、兄も人と上手く話ができるよう努力をしています。小さいときから、写真やカードなどを使って「といにいってきます」「おちゃをください」など簡単な言葉を使えるよう練習しています。

以前、障がい者について書かれている本を読んだとき、「障がいの有無で分け隔てることのないインクルーシブな社会」という言葉がありました。私はこの「インクルーシブ」という意味がよく分からなかったので、調べてみました。すると「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合う社会政策の理念」と書かれていました。さらに、その反対の言葉は「エクスクルーシブ」と言い「排除的、排他的」という意味だそうです。「一部の人を外へ追い出す」「除け者にする」などマイナスな表現ばかり出てきました。

|               |             |
|---------------|-------------|
| ★ 部活動や学校外活動   | ギターマンドリン部   |
| ★ 好きな科目       | 音楽・体育       |
| ★ 好きなことや好きなもの | ピアノを弾くこと・読書 |
| ★ 将来の夢        | 助産師         |

私はインクルーシブな社会を実現するための第一歩として、差別を無くすことが大切だと思います。普段、障がい者と接することが無い人達は差別なんて少ないんじゃないか、と感じているかもしれません。しかし、実際はたくさんの差別があります。兄の自閉症という障がいは一般的に誤解されやすく、小さい頃から周りの人に理解されずに心無い言葉を受けたり、白い目で見られたことがよくありました。今、兄は重度の障がいがあることで卒業後に受け入れてもらえるところが少なく、今後の進路に不安があります。他にも、私たちが簡単に入れる医療保険に入るのが難しいときがあります。まずはこれらの差別を知ってください。エクスクルーシブな考えの排除に繋がります。それは、やがて共に生きる共存社会の実現にもなると思います。みんなの為の社会、誰も一人ぼっちにされない、みんなに居場所があるインクルーシブな社会を創っていきましょう。







優良賞

## あいさつからつながる地域の輪

多気町松阪市学校組合立多気中学校 1年

市川 明香里

私が、この温かい中万町に引っ越してきたのは、生後六か月の時でした。私の父は、この地区の出身ではないので、知らないことがたくさんあり、近所にある神社さえ知らなかったほどです。ですが、地区の組長になったことで、防災訓練や文化祭、もちまきなど地域の方々と交流する色々な行事に、家族で参加するようになりました。

月に一度、この中万町では神社の清掃活動があります。私は地域の方々との関係性を高めたい、たくさんの事を学び、体験したいという思いで父と参加しました。元気よくあいさつをし、何度か参加するうちに、顔と名前をしっかりと覚えてもらえて、

「あかりちゃん、今日も来てくれたんやあ。ありがとう。」

と喜んでくれたり、

「これ拝殿に持ってってくれへんか？」

とたのんで下さるようになりました。私は人と話すことが好きなので、地域の方と話すのが楽しくて、清掃活動が楽しみになりました。また、神社での参拝のマナーなど自分の知識になる事も教えていただきました。

夏休みに自分の地区の事について調べる課題が出た時は、親身になって、参考になる資料を探して下さいました。それで中万町にはたくさんの古墳があり、古くから伝わる乳熊味噌があったりと、自分だけでは知り得ない貴重なことをたくさん知ることが出来ました。また、私が防火ポスターで賞をもらった時も、自分の事のように喜んで下さいました。

二年前に復活した、中万市でも、まずたくさんの人に笑顔であいさつをし、積極的に話しかけました。すると、笑顔で答えてくださって地域に守られているなと感じられました。中万市では、地域で育った野菜を売る手伝いをしたので、顔見知りの人が、

「これ立派な野菜やなあ。美味そう。」

と買っていつてくれました。たくさんの人が楽しそうにしている姿や、町並みスタンプラリーの景品としてもらった、昔の中万町の様子のポストカードを見て、昔も今と同じで活気のある、人が温かくて、暮らしやすい町だったんだろうなと思いました。色々な行事に参加する事は楽しみですが、最近では、新型コロナウイルスの影響で、地域の行事も中止になっているのでさみしく感じています。

私は小学生のころずっとダンスを習っていました。レッスンは指導して下さる先生へのあいさつから始まり、先生への感謝の気持ちをこめたあいさつで終わります。また、ダンスのイベントが

★ 部活動や学校外活動          ソフトテニス部

★ 好きな科目                      国語・音楽

★ 好きなことや好きなもの      ダンス・ピアノ

★ 将来の夢                        看護師

終わった後には、保護者の方を向いて、  
「送げいや見守りありがとうございました。」

と毎回必ずあいさつをするので、習い事でもあいさつが習慣づいていたのだと気づきました。

これからも地域の行事に積極的に参加していき、相手より早く気持ちの良いあいさつをしたいと思います。この中万町は自然がたくさんあり、様々な生き物がいます。そして、みんなが支え合っている素敵な町だとこの作文を書いて、改めて思いました。今は地域の方々に守っていただいているのですが、将来は地域を守り支えていけるような人になりたいと考えています。そして、地域の輪をつなげる役割をはたしていきたいと思っています。





## 優良賞 一人ひとりの行動で

名張市立名張中学校 2年

窪 田 り か

私は、思春期・反抗期を物ともせず、母ととても仲が良い。よく二人でドライブに出掛け、部活や友達の話をしたり、おたがいに好きな音楽をかけて歌ったりする時間が私にとってとても大きな楽しみとなっている。

ドライブに行くときは、私は必ず助手席に座る。そして、その名の通り、助手に徹する。アメを食べやすいように渡したり、ジュースをタイミング良く渡したり、曲を変えたり。

それらの助手の仕事の中でも、私が一番大切だと思っている仕事は、救急車がどこから近づいて来ているか確認する仕事である。救急車の音がほんのわずかでも耳に入ってきたら、まず音楽を止め、それと同時に窓を開け、体を大きく動かして、どこの方向から救急車が来ているかを目で確認し、母に伝える。無事に救急車が通り過ぎた後には、何だかよく分からないけれど、ものすごい達成感がある。

道路交通法によると、緊急自動車が近づいて来た時の対応として、「車両は交差点を避け、かつ、道路の左側に寄って一時停止しなければならない」と、定められており、緊急自動車に進路をゆずらなければならない。もし進路妨害をした場合、罰則が課せられる。

それにも関わらず、私はこれまでに救急車が交差点を通過できない、そもそも車を進めることすらできないという場面を何度も見てきた。救急車の前を「意地でもよけないぞ」と言わんばかりに走り続ける車や、大音量で音楽を流しているのか、真後ろに救急車が来ても気づいていない車もよく見かける。

緊急自動車の進路を妨害するようなドライバーや、悪気は無かったとしても、結果的に適切な判断ができないドライバーは、想像したことがあるのだろうか。その救急車に、一分一秒を争う患者さんが乗っていたら——。その人が自分の大切な家族だったら——。自分がとってしまった行動のせいで、患者さんが命を落としてしまったとしたら——。

私は実際に、祖母が救急車で運ばれ、救急隊員の方と、病院の処置のおかげで命を救っていただいたことがある。祖母には以前から心臓の持病があり、心不全を起こしていたそう。担当の先生の話では、もう少し救急車の到着が遅ければ、助からなかったらしい。幸い、その日は名張市立病院が救急外来の当番であったこと、時間が深夜の十二時頃であり、国道がすいていたことなどが重なって、祖母は今、日常生活を取り戻すまでに元気になった。

もし祖母が運ばれている時、私が普段目にしていた光景がその場に広がっていたら、もう祖母

★ 部活動や学校外活動 バスケットボール部

★ 好きな科目 理科

★ 好きなことや好きなもの 音楽鑑賞

★ 将来の夢 音楽関係の仕事

はこの世にいない。そう考えると背筋が寒くなる。

しかし、その事を「運が良かった」で片づけてしまっているのだろうか。

本来はどの時間帯であっても、全ての車両が緊急自動車の存在に気を配りながら運転しなければならないと思う。

私は将来、自分が母をとなりに乗せて車を運転できるようになる数年後を心待ちにしている。  
まず冷静に、色んな事が起こるかもしれない可能性を常に考えながら、  
「自分さえ良ければいい。」

という行動をとらない大人になれるよう、普段から助手として、腕を磨いていこうと思う。

一人ひとりのほんの数秒の行動で救われる命があるということを胸に刻み、当たり前のことを当たり前出来る大人に成長していきたい。







## 優良賞 私の将来

三重大大学教育学部附属中学校 3年

小 出 帆 華

ある大学医学部の入学試験で、女性受験生に対し、減点などの点数操作が行われていたそうです。私はそのニュースを聞いて、とても衝撃を受けました。

女性医師は出産や子育てのため、退職したり休職したりする。仕事に復帰しても、子供が大きくなるまでは遅くまで働くことができない。そんなふうに考えられてしまったのでしょうか。

女性の活動の場が奪われていると感じ、私は悲しくなりました。自分を生かせる場で一生懸命働く、でもプライベートだって大事にしたい、というのは、難しいことなののでしょうか。

私は、働き方について関心を持つようになりました。

私は今、中学三年生で、進路について考える機会が多くあります。職業選択について考える中で、ずっと悩みを抱えています。出産後も続けられる職業は何か。この条件が、私の職業選択の幅を、狭めているように感じるのです。

私はこれから多くのことを学び、力をつけ、将来は自分の興味のある分野で、その力が発揮できる仕事に就きたいと考えています。一方で、まちでベビーカーを押しているお母さんや、子供と手をつないで仲良く歩くお母さんを見ると、私もいつか子供を生んで、あんなふうに子供と過ごす時間を持ちたい、とも思います。仕事をして社会に貢献することと、子供を育てていくことを、うまく両立したいのです。

私の家族は、父も母も仕事をしています。

「子育てしながら仕事をするのは、楽ではない。でも、仕事を通して得た経験や出会いはとても貴重だし、充実感や達成感を味わうこともできる。夫婦で知恵を出し合い、協力し合い、会社の制度をうまく利用すれば、働きやすいし、両立もできるよ。」

と母は言っていました。

「働きやすい環境」とは、どのようなものなのでしょうか。仕事を一生懸命したいけれど、忙しさのあまり家族を思いやる余裕をなくしたくはありません。

平成三十一年度の調査結果で、男性の育休取得率は六、一六パーセントだったと、厚生労働省は発表しています。この数字は六年連続で上昇していますが、まだまだ少ないです。育児の負担は、女性に多くかかっているのだと分かります。制度があるのに、それを活用できていないのは、たいへん残念です。

また私は、制度の充実とともに、互いを尊重する意識が、みんなに広がることを願います。子

|               |       |
|---------------|-------|
| ★ 部活動や学校外活動   | 卓球部   |
| ★ 好きな科目       | 数学・英語 |
| ★ 好きなことや好きなもの | 音楽鑑賞  |
| ★ 将来の夢        | 考え中   |

育て以外にも、介護が必要な家族がいる、病気を抱えているなど、一人一人にいろんな事情があるはずだからです。それらの事情がなるべく尊重され、すべての人が制度を利用しやすい状態になれば、誰もが自信を持って働くことができるし、職場や社会にもっと貢献することができるのではないのでしょうか。

そのために、会社を運営する側と、会社に勤める側とが、互いにしっかりと理解しあえる関係であってほしいです。互いの生命や性や人格を、一人一人が尊重する意識を持って過ごしていけるといいなと思います。

それに現代は、自分の意見をしっかりと述べることができる社会です。困っていること、改善できること、願っていることなどを、仕事が円滑に進むように、また家庭との両立がうまくいくように、自分の言葉で発信していけるといいなと思います。

「できない理由より、できる理由を探す。たとえ失敗しても、自らの糧になる。本当にやりたいことなら、諦めずに最大限努力することが大事。」

これは、小池百合子都知事の言葉です。私も今は、将来の職業選択に悩むより、仲間を大切にしてお過ごし、社会に対して自分の思いを発信していく力をつけることを、大事にしようと思いました。そうやって知識と学習と経験を身につけ、興味のある分野に、思い切って飛び込んでいきたいです。自分らしく過ごせるように、人生を豊かにできるように、明るい未来に向けて、進んでいきたいと思っています。





## 優良賞 「協力し合う」大切さ

名張市立桔梗が丘中学校 1年

坂 本 脩 悟

ぼくが、今この社会で大切だと思うこと、それは「協力し合う」ことです。ぼくが、今までに「協力し合う」ことが大切だと一番感じたのは、クラブチームでサッカーをしていた小学生の時です。みんなで協力し合えた時と、協力し合えなかった時では、得点の数が違ったし、自分自身の達成感も違ったからです。そこでぼくは、うまくいく時は、次の三つのことを大切にしたい時ではないかと考えました。

まずひとつは、「相手のことを考える」ということです。サッカーでは、相手のことを考えることで、いいタイミングで相手に受けやすいパスが出せ、その結果、相手は次の攻撃がしやすくなります。でも、「相手のことを考える」だけで、相手の気持ちを分かるとは、とても難しいことだと思います。相手の気持ちを考えて、気づいたとしても、それが合っているか分からないからです。けれど、相手の表情を見て大体の気持ちを把握することや、相手に話しかけてみて相手の気持ちをもっと知ることはできます。そしてそうすることで、もっと「協力し合う」ことができると思います。

次は、「何事にも感謝する」ということです。「ありがとう」と言うだけで、相手に自分の気持ちが伝わったり、自分も相手も気持ち良くなります。小学生の時にサッカーのコーチにいつも「何事にも感謝する」ということを教えてもらいました。たくさんの人や物のおかげで色々なことができるということ、それらの全てに感謝するというのは「協力し合う」ということにもつながると思います。

最後に、「仲間を大切にする」ということです。ぼくは、仲間がいないと、「協力し合う」ということもできないと思います。ニュージーランドでは、先生からしかられた時には、人を責めずに仲間をはげますというのが文化だそうです。ダメなことをした仲間には優しく分かりやすく指摘して、信頼関係を深めるとのことです。ぼくは、このことを知った時に、これは「仲間を大切にする」ということにもつながると思いました。サッカーでもチームのメンバーで信頼関係を作ることが大切です。パスがうまくつながっていくのは信頼関係があつてこそだと思います。よって仲間を大切にするとは、信頼関係が深まることにつながり、さらに、「協力し合う」ことにもつながると思います。

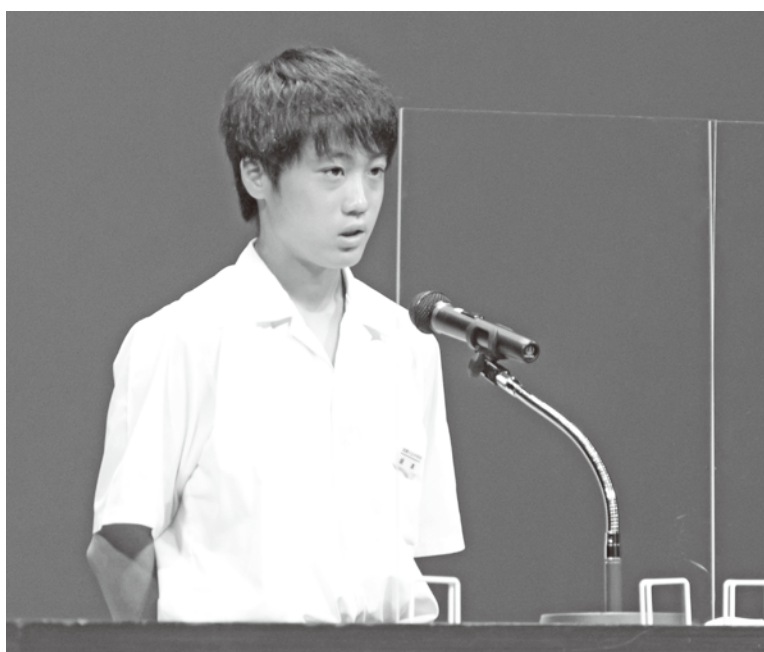
みなさんは、去年の新語・流行語大賞の「ワンチーム」を覚えていますか。それは、ラグビー日本代表チームのスローガンです。「ワンチーム」は、みんなが一つに結束したチームということを表すそうです。「ワンチーム」には、「協力し合う」ことが不可欠です。また、最近読んだラグビーの本の中に、「タックルした時に、相手をつかんでほさないように倒し、最後まで抱えこんで、怪我をしないように相手を思いやりながらプレーする。」と書かれていました。相手ときそいながら

|               |              |
|---------------|--------------|
| ★ 部活動や学校外活動   | サッカー部        |
| ★ 好きな科目       | 数学・英語        |
| ★ 好きなことや好きなもの | サッカー・スポーツ観戦  |
| ★ 将来の夢        | これから見つけていきたい |

も「相手の気持ちを考える」のは、大切だと思いました。

ぼくは、今新型コロナウイルスが感染拡大している中でも「協力し合う」ことは大切だと思いました。みんなで感染をおさえるために外出自粛を「協力し合う」このことについて、ぼくが日本ですごいなと思ったことは外出禁止の指示をしなくてもみんな「協力」して外出自粛をしているということです。他の国では、外出をすると、罰則が与えられる国もあります。なのに日本は、このようなことをしなくても外出自粛を「協力」してできるということは、とてもすごいことだと思いました。日本国民がこのような出来たのは、一人一人が責任を持って、自主的に行動できているからだと思います。

ぼくは、中学生として「協力し合う」ことはとても大切だと強く思うようになりました。そのために、ぼくが大切だと思う三つのことを忘れずにいたいです。また、これからの生活の中で「協力し合う」時は、自分から行動に移して、自分ができる限りの努力をしていきたいです。また、これから社会で起こる様々な危機も「協力し合う」ことで乗り越えることができると思います。なので、みんなで「協力し合う」ということを大切にしたいです。







優良賞

## 心のバリア ― 障がい者は特別じゃない

津市立南が丘中学校 2年

柴田 晴希

皆さんは、街で障がい者の方を見かけた時、思わず目をそむけてしまう、など複雑な感情を抱くことはありませんか。

私は昨年末、軽い足の骨折をし、外出する時は松葉づえを使う生活が三週間ほど続きました。出先では、色々な人から変わったものを見るような冷たい視線を送られて、嫌な気持ちになりました。障がい者の方は日々このような視線を受けているのだろうかと感じ、胸が痛みました。

以前、学校で脳性マヒという障がいを持つMさんのお話を伺う機会がありました。私は最初、ヘルパーさんの介助を受け車いすで来られたMさんを見て、失礼ながら「本当にこの人がお話しされるのかな」と思ってしまいました。しかし、Mさんのお話は、私の想像をはるかに超え、とても考えさせられる内容でした。その中で一番印象に残っている言葉は、障がい者と健常者の間の見えない壁を表す「心のバリア」という言葉です。Mさんが以前、福祉マップを作る会議に行かれた時、何の指示もないのに部屋の半分は障がい者、もう半分は健常者と分かれていたそうです。それを見て、「街のバリアフリー化が進んでも、心のバリアがあっては意味がない」と思われたそうです。

二年前、地域のイベントで、ボランティアとして子ども向けのミニゲームができるブースを運営した時のことです。私は健常児に対しては自然に接していましたが、途中から障がい児施設の子が大きな車いすで来ると、どう接するべきか分からず、「ルールが分からないかも」などと勝手に想像して行動していました。当時の私は気を遣ったつもりでしたが、それは自己満足に過ぎなかったのかもしれません。相手が望む行動をよく考えなければいけなかったと思い直しています。

このイベントから一年以上たったある時、ユーチューブを見ていたら、たまたま一つの動画に出会いました。ある小学校と、隣接する特別支援学校との関わりについての動画です。この二校の子どもたちは普段からとても交流の機会が多いそうです。この子たちは、お互いを区別せず笑顔で過ごしていました。私は、健常児の様子を見て「障がいの度合いに合わせて一人一人に違う行動をとれるんだな」と感心しました。でも、よく考えたらそれは当たり前のことです。私も友達には一人一人自然に行動を変えます。「障がい者だから」と、健常者と区別して考えていたことが私の心のバリアだったのかもしれません。

Mさんは、「心のバリアは年齢とともに高くなり壊しづらくなるように思う」ともおっしゃっていました。ここの子たちは心の壁がまだ高くないうちに関わりあえていたからこそ、自然な行動ができ

|               |          |
|---------------|----------|
| ★ 部活動や学校外活動   | 吹奏楽部     |
| ★ 好きな科目       | 音楽・国語    |
| ★ 好きなことや好きなもの | 音楽鑑賞     |
| ★ 将来の夢        | まだ分かりません |

るのだと思います。仮に障がい者と遊ぶのに抵抗がある子がいても、仲良くしている子たちを見て「障がい者と仲良くするのは難しいと思っていたけど、そんなことないんだ。」と気付けるかもしれません。そういう思い込みをなくしていくことが、壁をなくす第一歩だと思います。

私は、けがをして周りから冷たい視線を受けるという経験をきっかけに、障がい者の方に対する考え方が大きく変わりました。しかし残念ながら、私は先ほどの小学生と同じような自然な行動をとることはこれから先も難しいかもしれません。

でも、そんな私にも出来ることはあるはずです。例えば、街で障がい者の方を見かけても、私が受けた冷たい視線を相手に送ることは絶対にしません。その人が困っていたら、私がけがをした時に友達や家族がしてくれたように、声をかけることもしていきたいです。私はこういう小さな行動の積み重ねで、障がい者と健常者がお互い気持ちよく過ごせるようにしていきたいと思います。差別のもととなる「心のバリア」をなくすために。





## 優良賞 地域とつながるあいさつ

鈴鹿市立白子中学校 1年

辻 舞 衣

「卒業した実感ないよね。」

小学校の卒業式の帰り道。友達と話しながら、私はふわふわした気持ちで自宅に向かっていました。そのとき、

「卒業おめでとう。」

と突然、声をかけられたのです。声の主は、知らないおじさんでした。びっくりして友達と顔を見合わせた後、

「あ、ありがとうございます。」

と小さな声で返しました。驚いて、はっきりお礼を言えなかったことを後に後悔しました。

この出来事は、私が「地域のつながり」について考えるきっかけになりました。この出来事があるまで、私は地域の見守りがどれだけありがたく、大切なことかなんて、考えてもいませんでした。おじさんに出会って、私は六年間、地域の人たちにたくさん支えられて過ごしてきたんだと気付くことができました。

そもそも、なぜ地域のつながりが大切なのでしょう。考えて一番に浮かぶのは、「困ったときに助け合える」ことです。地域のつながりは助け合いを生み出すその一歩です。もし、災害が起こった場合、自分のことだけでなく、周りのことにも目を向けて、助け合わなければなりません。そんなときに、地域のつながりがあれば、一人ではできなかったことも助けてもらってできるようになります。すると、地域の中で助け合うことができると思います。

では、この地域のつながりをつくるために、私たちはどうすればよいのでしょうか。私は、出会ったらあいさつをすることが、地域のつながりをつくることへの第一歩ではないかと考えています。

私は、あいさつには人と人をつなぐ力があると思っています。あいさつは短い言葉でありながら、コミュニケーションがとれ、あいさつをした側もされた側も気持ちが良くなります。もしかしたら、あいさつをされて気持ちの良くなった人が別の人にあいさつをして、そこからさらにあいさつの輪が広がるかもしれません。あいさつだけで人と人とのつながりが増える可能性があるのです。だから、地域の人とあいさつをかわせば、地域のつながりをつくれるのではないかと思います。

地域のつながりについて、意識が変わった私は、地域の人に会えば、あいさつが自然にできるようになりました。あいさつをかわした人と、その後、話すこともあり、つながりが広がったとも感じるようになりました。

|               |               |
|---------------|---------------|
| ★ 部活動や学校外活動   | 卓球部           |
| ★ 好きな科目       | 音楽・家庭         |
| ★ 好きなことや好きなもの | 合唱・体を動かすこと    |
| ★ 将来の夢        | 人の役に立つ人間になりたい |

今、新型コロナウイルスの感染が拡大しています。感染した人やそのご家族、それに医療従事者の皆さんにまで差別や偏見が広がっているといいます。辛いのは一人だけではありません。こんなときだからこそ冷静になって、優しい心で生活を送るべきではないでしょうか。

新聞で、消毒液やマスクが不足している介護施設などに市民から寄付があった、という記事を見ました。自分のことだけでなく、地域のことに目も向けている人がたくさんいることを知り、素晴らしいなと思いました。同時に、地域のつながりの重要性を実感しました。つながりがあったから、「寄付しよう」という気持ちが生まれたのだと思います。

何が起こるか分からない日常の中、地域とのつながりは不可欠なものです。今後も、見守って下さる地域の人たちに感謝し、地域のつながりを大切にしていきたいです。

皆さんもあいさつから地域のつながりをつくりませんか。多くの人がつながることで、大きな力になります。地域の人を見守りを当たり前だと思わずに、感謝の気持ちをもってあいさつをしましょう。そしてみんなで、安心して暮らせる地域をつくっていきましょう。







優良賞

## ごみのポイ捨てから考えたこと

伊賀市立上野南中学校 2年

林 あ む

ステイホームでどこにも行けなかったゴールデンウィークに、今だからこそ出来ることって何かと家族で考えました。もう課題の問題集も終わり、家の中で読書もいいけれど、せっかく天気がいいので少しでも外の空気を吸いたかったので散歩に出かけました。

いつもの散歩コースの農道だけでなく、普段は車で通過するような車道も歩いてみました。すると、車道の道端にいろんなゴミがポイ捨てされているのが目につきました。まもなく田植えが始まる、車道沿いの私の祖父の田んぼの土手にも空き缶やタバコの吸いがらが落ちています。ゴミが田んぼに入ったまま田植え機が入ると故障の原因にもなるし、なによりお米が美味しくなくなります。そこで、父と弟と一緒に道端のゴミを拾うことにしました。拾いながら歩いていると、あっという間にゴミ袋が一杯になってしまいました。その日は一時間ほど拾って帰りましたが、ビールやコーヒーの空き缶とタバコの吸い殻が多かったように感じました。

正直、父がゴミを拾うことを提案したとき、「面倒くさい」と思いました。せっかく散歩するんだから四つ葉のクローバーをさがしたり、オタマジャクシを見に行ったり楽しいことがしたいと思ったからです。でも、いざゴミを拾いかけると、「あそこにある」「ここにもある」と探しては拾うことに夢中になりました。そしてゴミ袋が一杯になった分、道路がきれいになり、自分の心もスッキリしました。ものすごい達成感を得たけれど、ゴミの多さに驚きました。

家に帰ってから父と、今度はどんな種類のゴミが多いのか数を数えてみようということになって、父の休日にまた、弟と三人でゴミ袋を持って歩いてみました。二回目のゴミ拾いも一時間ほど歩いて、結果、一番多かったのはタバコの吸い殻で六十八個、次がコンビニの弁当箱のようなプラゴミが五十個で、多い順番に言うと紙ゴミ三十七個、お菓子の袋三十六個、空き缶三十個、ビニール袋十九枚、ペットボトル八本、発泡スチロール五個、金属ゴミ四個、ライター一個、布ゴミ一枚という結果でした。

私が歩いた道は、地元の人しか歩かないような農道と、地元の人あまり歩かないような車道です。農道にはゴミは落ちていませんでした。拾ったものは全て車道のものだったので、ほとんどのゴミは通りすがりの車からポイ捨てされたものと考えられます。そして、空き缶のほとんどがビールやアルコール類のものでした。私たち子どもは、タバコもお酒も飲めません。なので、これらのポイ捨てのほとんどが、大人のものだということは容易に想像ができました。私は、自分の住む地域の道路をきれいにすることが出来たことは、とても嬉しかったです。でも、ゴミの内容を

|               |                        |
|---------------|------------------------|
| ★ 部活動や学校外活動   | ソフトテニス部・書道             |
| ★ 好きな科目       | 理科・数学                  |
| ★ 好きなことや好きなもの | 知らない土地に行って発見することができる旅行 |
| ★ 将来の夢        | 薬剤師になって新しい薬を開発したい      |

調べてみた結果に、私は怒っています

ゴミがポイ捨てされている現実、私の住んでいる地域だけではなく。テレビやインターネットのニュースで、海に流れ着いたゴミを間違えて食べた亀やイルカが命を落としていることや、地球上で一年の間にポイ捨てされたタバコの吸い殻を全て一列に並べると、地球から土星までの距離と同じになるというような話を知りました。日本もっとゴミのポイ捨てに厳しくなってもいいのではないかと思います。

そして今、新型コロナウイルスのせいで、私たちの学力が低下するかもしれないと言われています。ここでいう学力とは、いったい何のための力でしょうか。大人たちの言う学力は、社会にどう役立つのでしょうか。難しい数学の問題を解けたり、たくさん漢字や英単語を知っている力で私たちのことを測るのではなく、自分の住んでいる地球をゴミで汚さないようにする力で測って欲しいです。そして、ゴミはポイ捨てしないのが当たり前の日本になればいいなと思いました。





優良賞

知ってほしい、理解してほしい

松阪市立飯南中学校 3年

山 本 柚鈴葉

今、「しょうがいしゃ」という文字を思い浮かべてみてください。「がい」という字を漢字にした人もいれば、平仮名にした人もいます。私は「がい」に、悪い印象のある漢字が使われていることに納得がいきません。そこで、平仮名にするように心掛けています。「がい」を漢字表記にするのか、平仮名表記にするのか。これは、漢字と平仮名を使う日本だからこそその問題であり、国民の誰もが向き合うべき問題でもあると思います。漢字一字の小さなことに思えますが、障がいに対する意識を表す、大きなことだと私は思います。障がい者という言葉に「害」の漢字を用いることが適当なのか、漢字表記のせいで誰かが傷ついていないか、日本国民全員に一度考えてもらいたいのです。そして日本を、障がいに対する偏見、差別がない国にしていきたいです。なぜ、私がこう思うようになったのかというと、様々な障がいについて学ぶなかで、日本人の、障がいへの偏見や差別があるという現実を知ったからです。私は人権委員として、スロープや手すりなどの身近なバリアフリーについて学んだり、障がい者スポーツを体験しに行ったりしました。学校へ講師の先生に来ていただき、LGBTについて教わったり、義足や義手に直接触れたりもしました。授業で、聴覚障がいのある方と通訳の方に、手話を教わったこともありました。私は、このようにして障がいのことを学び、興味を持つようになりました。そんななかで、印象に残った出来事が二つあります。

一つ目は、ある動画を見た時のことでした。それは、台湾の人にLGBTについてインタビューをしている動画でした。台湾の人たちは、LGBTの意味を知っている人がほとんどで、撮影者が自分たちもLGBTだと話しても、相槌を打って受け入れている人が多くいました。その次に、日本で同じようにインタビューをしている動画も見ました。意味を知らない人が多く、日本人のLGBTに対する認知度が、私の想像よりもはるかに低かったことに衝撃を受けました。最近では、LGBT以外の多様な性も認められてきています。これらのことを知っている人がもっと増えて、正しい理解が広まってほしいと思います。

二つ目は、手話についての授業を受けていた時のことでした。私の勘違いかもしれませんが、講師の先生の話の中に「障がい者は、就けない職業がある。」という内容があったように思います。私はその話を聞いて、「障がいの有無に関係なく、誰もが自由に夢を追いかける世の中になりたい。」と思いました。しかし、すぐに世の中を変えるのは難しいと思います。でも、小さなことから少しずつ取り組んでいけば、いつか実現できるはずです。まずは、日本人の障がいに対

|               |                  |
|---------------|------------------|
| ★ 部活動や学校外活動   | ソフトテニス部          |
| ★ 好きな科目       | 音楽               |
| ★ 好きなことや好きなもの | 読書・YouTube を観ること |
| ★ 将来の夢        | 理学療法士            |

する意識や考え方を変えることからだと思います。

そこで、そのための方策を考えてみました。小学生や中学生が、障がい者の方と一ヶ月間学校生活を送るというものです。車いすで生活する大変さ、手話や点字の難しさ、障がい者スポーツの楽しさなど、たくさんのことを感じられると思います。そうして障がいのことを知り、理解することで、差別する必要はないと思えるようになるはずです。そして子どもから、固定観念をもつ人がいる親世代へと、障がいへの正しい考え方が広まってほしいです。他には、「害」の漢字表記を平仮名に国全体で改め、その理由や思いを伝えることでも、障がいへの印象や意識を変えることができるのではないかと考えました。

日本は今、戦争もなく、平和だと言われていると思います。しかし、本当に平和と言えるのでしょうか。日本は、障がいに対する差別をはじめ、まだまだ人権問題を抱えています。命を落としてしまう人も、日々生きづらいと感じている人もいます。つまり私は、現状の日本は本当の意味で、まだまだ平和とは言えないと思います。だからこそ、私は、少しでも多くの人に、障がいについて知ってほしい、理解してほしいと思っています。そして、これからの日本を、障がいへの差別や偏見がなくなり、誰もが生きやすいと思える国、障がいへの配慮を他国へ発信できる国、日本に生まれてよかったと誇れる国にしていきたいです。







## 優良賞 守ろう我が星

四日市市立港中学校 3年

吉田 菜月

みなさんは、地球の将来について考えたことはありますか。

今、地球温暖化が想定以上のスピードで加速しています。「私たちの代で地球を破壊してしまった」そんなことを言いたくないし、このままではいけないと思いませんか。

私が環境問題を意識し始めたきっかけは、スウェーデンの十七歳、グレタ・トゥーンベリさんの存在です。私とたった二歳しか変わらないのに、世界規模の広い視野を持ち、力強い言葉で大人たちを批判するグレタさんの行動力は並外れていると感じます。

グレタさんは十五歳のときに首都ストックホルムで、政府への抗議を込めて座り込みを始めました。その後、毎週金曜日に学校の授業をボイコットする「学校ストライキ」も開始しています。自分の生活を犠牲にしてまで、地球温暖化を阻止しようとしている姿を見て、「それぐらい深刻なことなんだ」と気づきました。

去年の九月、グレタさんは国連の「気候行動サミット」で演説をしました。各国の首脳に対して「あなたたちが話すのは金と永遠の経済成長というおとぎ話だけ」と声を震わせました。世界の大人たちを相手に自分の意見を主張するのは並大抵の勇気ではありません。その思いが伝わったのか、七十七の国が二〇五〇年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするという目標を示しました。しかし、日本を含む、排出量上位五か国はこの目標を掲げていません。これはおかしいと思います。グレタさんは日本の若者にも協力するよう呼びかけました。日本にいる私たちも決して無関係ではありません。

私が地球温暖化についてあせっていることはまだあります。それは、相次いでいる森林火災です。すみかである森を焼かれてしまった動物たちは行き場を失っています。私は、特にオーストラリアでの森林火災の映像を忘れられません。炎の海に囲まれたコアラが、やせ細った黒い体でさまよっている映像です。この映像を見て、私は大変ショックを受け、目を離すことができませんでした。また、北極では白くまが滞在するための氷も少なくなっています。薄い氷の上に乗った白くまの親子の足元が割れ、海に落ちてしまった映像も見て、いたたまれなくなりました。私たち人間の勝手な行動のせいで、動物たちは危険にさらされているのです。

さて、私たち人類には何ができるのでしょうか。私から三つの提案をしたいと思います。

一つ目は、石炭を燃やして発電する火力発電をやめ、環境によい再生可能エネルギーをもっと取り入れること。火力発電では、多くの二酸化炭素を排出してしまい、地球に優しくないからです。

|               |            |
|---------------|------------|
| ★ 部活動や学校外活動   | 吹奏楽部       |
| ★ 好きな科目       | 理科         |
| ★ 好きなことや好きなもの | 楽器の演奏・音楽鑑賞 |
| ★ 将来の夢        | 気象予報士      |

二つ目は、積極的に植樹を進めること。「地球の肺」と呼ばれているアマゾンの密林でも火事が起こりました。森林は減っていく一方なので、新たに木を植える必要があると思います。

三つ目は、使用済み紙おむつのリサイクルを普及させること。驚くかもしれませんが、使った紙おむつは、固形燃料、建設資材、さらには新品のおむつに生まれ変わるのです。これから超高齢化社会に向かっていく日本に打ってつけなのです。

このように、地球の大切な資源を消費し、多くの二酸化炭素を排出している以上、地球を守るという責任が伴います。つい忘れてしまいそうなときは、あのコアラや白くまのことを思い出したいと思います。

「この十年が人類の未来を決める」グレタさんはそう警告しています。もう時間はないのです。私たち若い世代がこれからの地球を担っていくのだから、私たちも行動を起こさなければなりません。

みなさん、このままでいいのでしょうか。



## 審査委員の皆さま

|        |        |                            |
|--------|--------|----------------------------|
| 審査委員長  | 駒田 美弘  | 国立大学法人三重大学 学長              |
| 審査委員代表 | 水元 正   | 公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長   |
| 審査委員   | 間野 丈夫  | 三重テレビ放送株式会社 常務取締役          |
|        | 谷口 修一  | 伊賀市教育委員会 教育長               |
|        | 西山 嘉一  | 名張市教育委員会 教育長               |
|        | 篠木 素道  | 三重県小中学校長会 幹事(名張市立赤目中学校 校長) |
|        | 北川 友和  | 三重県 PTA 連合会 理事             |
|        | 大井 邦子  | 三重県私学協会(三重中学校 国語科教諭)       |
|        | 小林 美奈子 | 三重県教職員組合 中央執行副委員長          |
|        | 大橋 範秀  | 三重県子ども・福祉部 部長              |



## 審査委員の講評 (順不同・敬称略)

### 【審査委員代表】水元 正 (公益財団法人三重こどもわかもの育成財団 副理事長)



発表者の皆さんすばらしいスピーチをありがとうございました。今年の中学生のメッセージ2020の中から選び抜かれた代表として、堂々とした心に響く発表でした。

社会生活、学校生活、部活動にも多大な影響を与えている新型コロナウイルスにより生活環境は一変し、東京オリンピックの開催が1年延期される中、発表されたテーマは、地域のつながり、環境問題、障がい者問題、また社会情勢である新型コロナウイルス感染症拡大をきっかけに考えを深めたことなど、多岐にわたり、その感性や主張は、会場の皆さんの心にも深く響いたものと感じました。

また皆さんの発表は、現代の中学生がどんなことに関心や悩みを持ち、思いや行動につなげていこうとしているのかがよく伝わりました。それは、同時に私たち大人もしっかりと考えなければならない問題も提起されていたと思います。

今回の発表者の皆さんに共通していることは、何らかの問題や困難に直面した際に、相手のことを考えて思いやりを持って自ら行動することの大切さを伝えていただいたことだと思います。中学生の皆さんがこのような思いを持たれていることは非常に心強く、今後もしっかりとこの経験を糧にして成長していったほしいと願っています。

今回の発表者13名の中から、最優秀賞1名、優秀賞3名、優良賞9名をそれぞれ選ばせていただきました。皆さんの発表はいずれ劣らぬすばらしい発表でした。

その中で、最優秀賞の「輝ける舞台まで」の題目で発表された松本 未空さんは、論旨の構成がしっかりしており、発表にも臆することなく堂々と主張をされていました。特に、新型コロナウイルスの影響をまともに受け、陸上のアスリートとして悩み苦しんだ情景と何よりそのことから自分の今やるべきことをしっかりと捉えていることは特に優れており、審査委員の中でも高く評価されました。

何より、中学生の皆さん、この作品を読んでもください。読んでいただければ皆さんも何かを感じ取ってもらえることと信じます

最後になりますが、発表者の皆さんをはじめ、大会運営に携わっていただきました伊賀地区実行委員会の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。





**【審査委員】間野 丈夫（三重テレビ放送株式会社 常務取締役）**



「中学生のメッセージ」の審査をするのは今年で6回目になりましたが、作文とパフォーマンスとで、これほど正反対の評価をしてしまったのは、今回が初めてでした。

作文で高い評価をしていたのに、パフォーマンスは普通の点しかつけられなかったり、作文はそれほどでもなかったのに、パフォーマンスは高い評価をせざるを得なかったり。そんな生徒が何人もいました。「発表」のうまさで評価が逆転するのは仕方がないことです。それを競うのですから。

でも、とつとつとした素朴な話し方に、すごく魅力を感じる生徒もいました。「味がある」とか「地味だが心が伝わる」とか、そんな評価項目があれば高い点をつけられたでしょう。ここでは上位入賞がかなわなくても、いつかどこかであなたたちの魅力が認められ、花開くときがくると信じています。

.....

**【審査委員】谷口 修一（伊賀市教育委員会 教育長）**



今年の「中学生のメッセージ2020」は、新型コロナウイルスの影響で観客が制限される中で開催されましたが、12名の皆さんは堂々と澁刺とした態度で発表し、私達に感動を与えてくれました。主張の内容も、家族、学校、地域それぞれの関わりの中で、身の回りで起こる様々な体験を通じて、感じたこと、考えたことを中学生らしい切り口で力強く訴えるものでした。

どの発表も、身の回りの出来事に関心を持ち、悩み、考えたことを自分の言葉でまとめ、説得力をもって表現されていました。様々な経験と自問自答はわかものが成長していくためには必要なことですし、説得力ある発表は、これからの時代を生き抜くためには不可欠です。様々な機会を通して、中学生の皆さんが未来への夢と希望をもち、新しい時代を担う人材となることを願っています。

最後になりましたが、コロナ禍の中、大会運営に携わっていただきました三重こどもわかもの育成財団はじめ関係者の皆様や、参加いただいた中学生の皆様に関心と感謝申し上げます。



また、発表する姿も、例年とは違った発表の場ではありましたが、表情豊かに、社会や大人に向けての意見や未来への希望の提案として、自分の生活や経験をもとにして、聞く者に語りかけ、訴えかけてくれました。

最後になりましたが、大会運営に携わっていただきました三重こどもわかもの育成財団はじめ関係者の皆様、中学生の皆さんに感謝申し上げますとともに、この「中学生のメッセージ」がますます発展されますことを心からお祈りいたします。

A black and white portrait of a middle-aged man with short, dark hair, wearing glasses, a white shirt, a dark tie, and a dark suit jacket. He is looking directly at the camera with a neutral expression. The background is a plain, light color.

新型コロナウイルス感染症の影響によるステイホーム期間中、家での行動範囲が広がり普段気付かなかった「ゴミのポイ捨て」「全国大会を目指していたが中止となり目標がなくなったことから得たもの」など中学生らしい感性で自分の考え方や生き方について真正面から捉え訴えてい

最後になりましたが、本大会運営に携わっていただきました皆様に感謝を申し上げます。

### 【審査委員】北川 友和（三重県PTA連合会 理事）



名前を呼ばれ、誰もが大きな声で返事をし、大人でも緊張してしまうと思われるステージで、しっかり自分のメッセージを発表している姿に感動しました。

「自分の将来」「障害者等への差別などの社会問題について」「介護・ゴミのポイ捨て等身近な話題」など、成長途中の多感な時期である中学生だからこそその気づきは、こちらがはっとするような斬新なメッセージもあり、多くの事を学ばせてもらいました。

事前にメッセージを読ませてもらっていましたが、実際に当日の発表を聞き、読んだ時とは違う感想になったメッセージもあり、生の声の力の大きさも実感しました。

私も、自分の子どもたちの意見にしっかり耳を傾けようと、心新たにできた1日でもありました。

コロナ禍で、多くの大会等が中止を余儀なくされている中、中学生が自分の声で発表できる場を無事に開催できたことを、大変嬉しく思います。

感染症対策など、例年にない対策で大会運営を支えてくださった関係者の皆様には心より感謝いたします。

.....

### 【審査委員】大井 邦子（三重県私学協会〈三重中学校 国語科教諭〉）



壇上で発表された皆さん、とても素晴らしい経験をなさいましたね。よく練られた論旨を基に堂々として自分の思いを発表され、心打たれる主張ばかりでした。今回の大会で、私が一番素晴らしいと思ったことは、皆さんが社会を見ておられる視点です。社会の出来事を受け止めるだけでなく、そこに感じた違和感や疑問について、積極的に意識を持ち、身近な問題として考えておられました。環境問題は私たちの足元に落ちているゴミの一つから、人権問題は家族への思いから、社会問題は自分の

日常生活の一コマからと、大人では気が付かないことを丁寧に掘り取り、まっすぐな思いで考えておられ、何度「はっ」とさせられたことでしょうか。誰もが住みよい社会を作るには、本当にみんなの力が必要だということ学ばせていただきました。最後になりましたが、大会にご尽力いただきました皆様方、本当にありがとうございました。

**【審査委員】小林 美奈子（三重県教職員組合 中央執行副委員長）**



新型コロナウイルス感染防止対策として、さまざまな行事やイベントが中止や延期となるなか、多くの方々のご苦勞ご協力のおかげで当日を迎えることができましたこと、心から感謝申し上げます。

事前にいただいた原稿を読み返すたび、瑞々しいすなおな感覚やするどい視点にわたしの心は揺り動かされました。そうして本番当日、舞台に立つみなさんの表情や主張をまのあたりにし、「琴線にふれる」とはこういうことなのだと思うほど、感銘を受けました。

身近な活動やくらしのなかでの人々との関わり、そこでうまれた感情や考え、将来や社会への思いや願い、地球規模の視野にたった意見など、練りあげと自分らしさが発揮されていました。このような機会が、人々の意識を変え、社会を動かす。未来を拓くことにつながるのだと、これから期待がふくらんでいます。

.....

**【審査委員】大橋 範秀（三重県子ども・福祉部 部長）**



「中学生のメッセージ2020」の審査を通じて、二つのことを感じました。

まずは、皆さんから寄せられたメッセージの内容の素晴らしさです。事前選考として原稿を読ませていただき、若者らしい視点や内容、それぞれに異なる文章力にうなっていました。

二つ目は、伝えることと伝わることは異なるということです。原稿を読んだ印象と、作者が行う発表を聞いた印象が、全く異なる作品が多くありました。言葉に命が吹き込まれ言葉の輝きが数段増したような発表に触れて、会場でもうなっていました。

皆さんにはこれからも、自分の頭で考え、自分の言葉で伝えることを大切にしてほしいと思います。と同時に「伝える」と「伝わる」は異なるということを忘れないで、素敵な言葉を発信し続けてほしいと願います。



# 大会概要

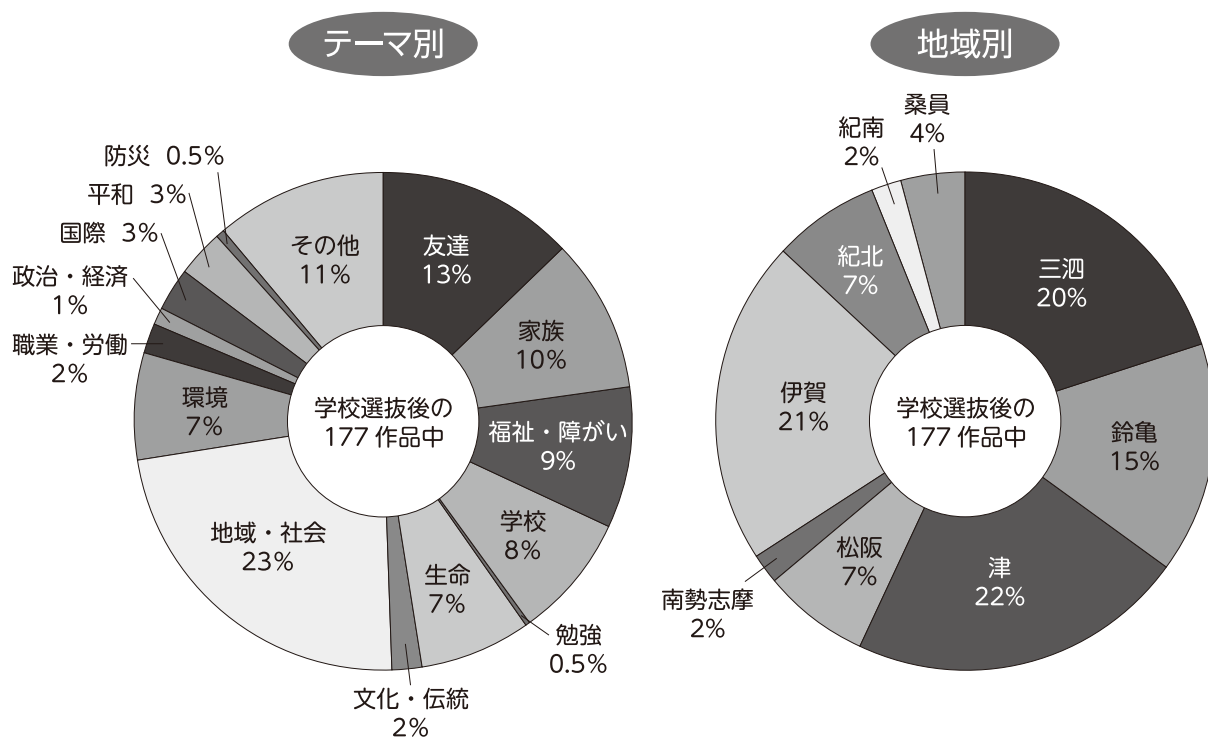
## 1 応募の状況

(1)応募者数

| 地区名  | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度  | 令和2年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 北勢   | 3,772  | 7,985  | 5,177  | 4,131  | 5,811  | 3,923 |
| 津    | 327    | 766    | 845    | 2,762  | 938    | 964   |
| 松阪   | 534    | 545    | 534    | 536    | 518    | 671   |
| 南勢志摩 | 255    | 226    | 3,590  | 601    | 123    | 101   |
| 伊賀   | 2,009  | 1,926  | 2,052  | 1,595  | 3,952  | 3,749 |
| 紀北   | 291    | 303    | 286    | 250    | 247    | 217   |
| 紀南   | 697    | 170    | 147    | 291    | 493    | 149   |
| 計    | 7,885  | 11,921 | 12,631 | 10,166 | 12,082 | 9,774 |

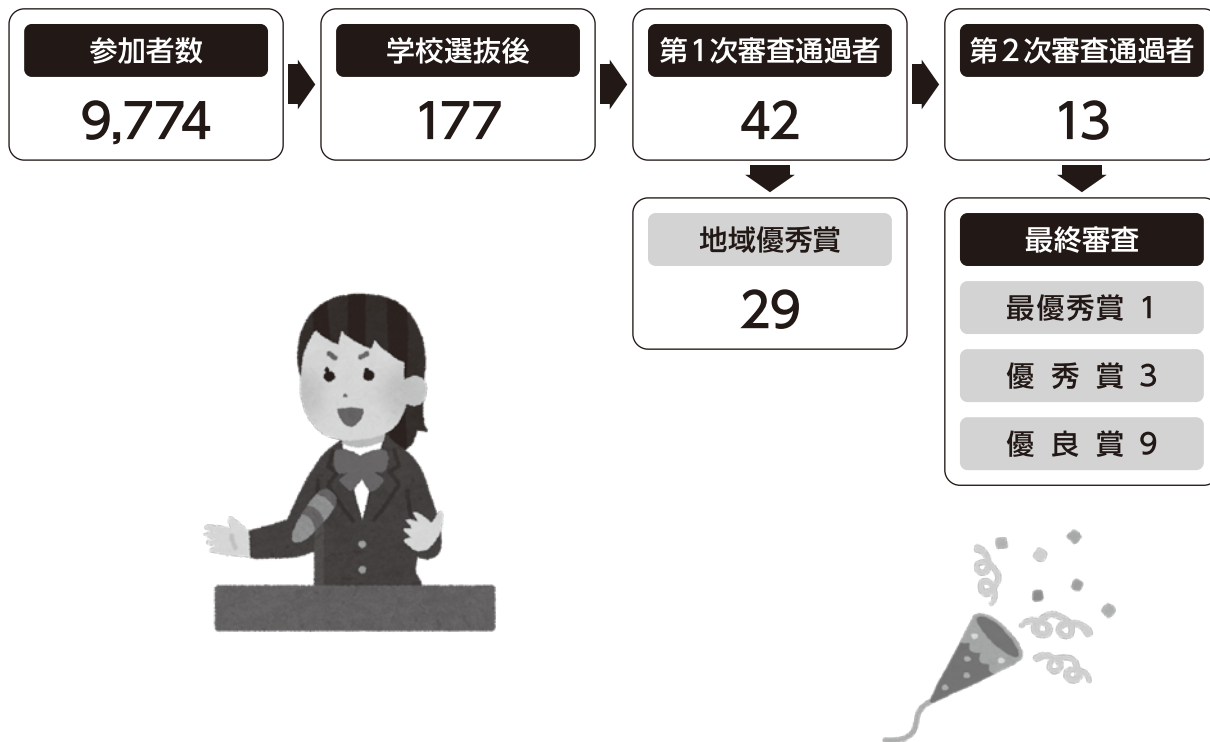
## 応募作品のテーマ・地域別の内訳

応募点数 9,774 の内、学校における選抜を受けて当財団に提出された 177 作品の内訳です。

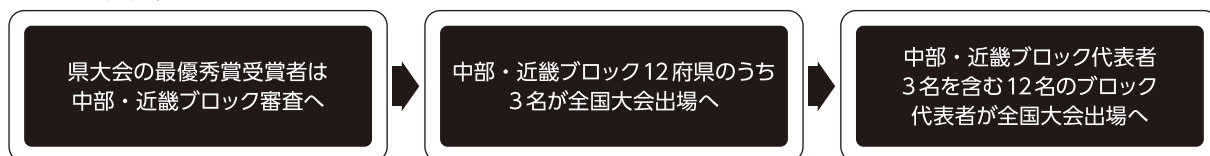


(2)選考の過程

1. 県大会



2. 全国大会



## 2 地域優秀賞受賞者一覧

| No. | 学 校 名       | 学年 | 名 前                     | タ イ ト ル           |
|-----|-------------|----|-------------------------|-------------------|
| 1   | 四日市市立中部中学校  | 3  | に わ とも か<br>丹羽 友香       | 家族との時間            |
| 2   | 四日市市立港中学校   | 3  | き むら この か<br>木村 好花      | 「体験型図書館」を知っていますか？ |
| 3   | 四日市市立港中学校   | 3  | す え やす ま お<br>末安 真緒     | あなたの音は何色ですか。      |
| 4   | 四日市市立大池中学校  | 3  | い とう ひ な<br>伊藤 妃菜       | 「笑顔があふれる世界に」      |
| 5   | 四日市市立朝明中学校  | 3  | きた むら ね ね<br>北村 寧々      | 「地球にぬくもりを」        |
| 6   | 四日市市立西笹川中学校 | 3  | く どう は や と<br>工藤 颯人     | SNS の真疑に問う        |
| 7   | 四日市市立桜中学校   | 2  | た に ぐち あ お<br>谷口 碧      | 僕は大人になったらマグロを釣りたい |
| 8   | 四日市市立楠中学校   | 1  | か げ い ゆ う<br>景井 優       | 野球が教えてくれる物        |
| 9   | 鈴鹿市立平田野中学校  | 3  | う え だ こ こ ろ<br>上田 心     | 自分を見つめて           |
| 10  | 鈴鹿市立白鳥中学校   | 3  | ほ り か わ あ お い<br>堀川 葵   | 日本の動物愛護のゆくえ       |
| 11  | 鈴鹿中等教育学校    | 1  | や ま だ こ た ろ う<br>山田 琥汰朗 | スマートフォンの所有について    |
| 12  | 津市立久居西中学校   | 3  | い わ は な み さ き<br>岩花 美咲  | 私を変えた一日           |
| 13  | 津市立久居東中学校   | 3  | お だ ま ゆ<br>小田 真由        | 未来を決めるのは「少しの意識」   |
| 14  | 津市立香海中学校    | 1  | は っ た ゆ う と<br>八太 佑斗    | 友だちとの関わりについて      |
| 15  | 津市立香海中学校    | 3  | くら た こ こ な<br>倉田 ここな    | 感謝を言葉に            |



| No. | 学 校 名       | 学年 | 名 前                                 | タイトル                    |
|-----|-------------|----|-------------------------------------|-------------------------|
| 16  | 津市立美杉中学校    | 3  | <small>み うら もも こ</small><br>三浦 桃子   | プラスチックの海                |
| 17  | 津市立みさとの丘学園  | 9  | <small>にし だ あま ね</small><br>西田 天音   | 度が過ぎたら犯罪だよ ― SNS 上の責任 ― |
| 18  | 三重中学校       | 3  | <small>もり ぐち じゅん な</small><br>森口 順菜 | 「言葉のナイフ」                |
| 19  | 皇學館中学校      | 3  | <small>ユー リア せ な</small><br>ユーリア 聖那 | 新型コロナウイルスの真の脅威          |
| 20  | 伊賀市立城東中学校   | 3  | <small>い とう な な</small><br>伊藤 那菜    | 変える力                    |
| 21  | 伊賀市立上野南中学校  | 1  | <small>つぶ らい けい た</small><br>粒来 啓太  | 失われたあたりまえ               |
| 22  | 伊賀市立上野南中学校  | 3  | <small>まつ づか</small><br>松塚 さくら      | 私が目指す大人像                |
| 23  | 伊賀市立島ヶ原中学校  | 3  | <small>まち み なみ</small><br>町 美海      | かけがえのない明日のために           |
| 24  | 名張市立桔梗が丘中学校 | 3  | <small>は やま か ほ</small><br>葉山 花穂    | 景観を守る取り組み               |
| 25  | 名張市立北中学校    | 3  | <small>いな もり けい た</small><br>稲森 啓太  | 伝統ある剣道の良さ               |
| 26  | 紀北町立赤羽中学校   | 3  | <small>たに あや ね</small><br>谷 彩音      | 拝啓、十年後の私へ               |
| 27  | 紀北町立赤羽中学校   | 3  | <small>はし くら そう た</small><br>橋倉 颯汰  | 僕たちの戦い                  |
| 28  | 紀北町立赤羽中学校   | 3  | <small>ふる はた の あ</small><br>古畑 希彩   | 私の願い                    |
| 29  | 御浜町立御浜中学校   | 3  | <small>はま ぐち り い</small><br>濱口 栞衣   | ポジティブな気持ちをもって           |





### 3 学校奨励賞受賞校一覧

| No. | 学 校 名            | No. | 学 校 名       |
|-----|------------------|-----|-------------|
| 1   | 桑名市立光風中学校        | 19  | 皇學館中学校      |
| 2   | 桑名市立正和中学校        | 20  | 伊賀市立崇広中学校   |
| 3   | 四日市市立港中学校        | 21  | 伊賀市立緑ヶ丘中学校  |
| 4   | 四日市市立富洲原中学校      | 22  | 伊賀市立城東中学校   |
| 5   | 四日市市立富田中学校       | 23  | 伊賀市立上野南中学校  |
| 6   | 四日市市立西陵中学校       | 24  | 伊賀市立霊峰中学校   |
| 7   | 四日市市立三重平中学校      | 25  | 伊賀市立島ヶ原中学校  |
| 8   | 四日市市立楠中学校        | 26  | 伊賀市立阿山中学校   |
| 9   | 鈴鹿市立天栄中学校        | 27  | 伊賀市立大山田中学校  |
| 10  | 鈴鹿市立鈴峰中学校        | 28  | 伊賀市立青山中学校   |
| 11  | 鈴鹿中等教育学校         | 29  | 名張市立名張中学校   |
| 12  | 津市立橋南中学校         | 30  | 名張市立赤目中学校   |
| 13  | 津市立芸濃中学校         | 31  | 名張市立桔梗が丘中学校 |
| 14  | 津市立香海中学校         | 32  | 名張市立北中学校    |
| 15  | 津市立みさとの丘学園       | 33  | 名張市立南中学校    |
| 16  | 松阪市立飯南中学校        | 34  | 紀北町立赤羽中学校   |
| 17  | 多気町松阪市学校組合立多気中学校 | 35  | 紀北町立三船中学校   |
| 18  | 多気町立勢和中学校        | 36  | 御浜町立御浜中学校   |

※学校奨励賞は、積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上）が受賞されました。



# 大会メモリアル

伊賀市文化会館 さまざまホール 2020.8.29

当日の大会会場



10:00 実行委員会の皆さんが集まりました。



ロビー入口にて検温



実行委員による受付



新型コロナウイルス感染症対策が徹底されていて安心して入場できました。

## 来場者の コメント

とても親切丁寧に受付や案内をしていただきありがとうございました。

11:00 発表者が集合しました。



11:30 緊張の中、リハーサル



13:00 開会

主催者からの大会挨拶



伊賀市長からのビデオメッセージ



13:10 いよいよ発表が始まりました !!



## デザイン画入賞作品展



応募総数730点の中から選ばれた入賞作品4点を会場ホワイエに展示

### 最優秀賞

「私の考え、言ってもいいんだ」  
名張市立北中学校1年福永あかるさんの  
作品がプログラムの表紙を飾りました！



厳正なる審査中



15:25 表彰式 おめでとう！



審査委員代表による講評



### 受賞者のコメント

最優秀賞に選ばれてとても  
うれしかったです。  
発表の際は声の出し方や  
表情を意識しました。



鈴鹿市立平田野中学校3年  
松本 未空 さん



# 中学生への応援メッセージ

中学生へ三重県知事、三重県議会議員、伊賀市長、協賛企業・団体様からあたたかい応援メッセージをいただきました。

|                                                                                              |                                                                |                                                                                                                    |                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| <p>風は向かい風の時に<br/>最も高く上がる。<br/>追い風の時ではない。<br/>～ウィンストンチャーチル(英)の言葉より～</p> <p>三重県知事 鈴木 英敬</p>    | <p>若い力で開こう<br/>未来への扉を！</p> <p>三重県議会議員 日沖 正信</p>                | <p>あなたの思いが未来を創る<br/>今の感性を大切に!!</p> <p>伊賀市長 岡本 栄</p>                                                                | <p>あきらめない心こそ<br/>本当の才能</p> <p>株式会社アーステックTAGAWA<br/>代表取締役 田川 永都</p> |
| <p>「苦楽と共に<br/>明るい未来を作ろう！」</p> <p>伊賀上野ライオンズクラブ</p>                                            | <p>明るい未来を<br/>応援しています!!</p> <p>社会福祉法人伊賀市社会事業協会</p>             | <p>「緑を大切にしよう」</p> <p>伊賀森林組合<br/>代表理事組合長 福田 正俊</p>                                                                  | <p>一生懸命やれば<br/>目標に到達できる</p> <p>伊賀ふるさと農業協同組合</p>                    |
| <p>成功するまで<br/>あきらめない</p> <p>イセト株式会社<br/>代表取締役社長 伊藤 尚貴</p>                                    | <p>未来の夢を<br/>助ける努力！</p> <p>エコロプラス<br/>代表 白木 道明</p>             | <p>Don't call it a dream,<br/>call it a plan.<br/>それを夢と呼んではいけない、<br/>計画と呼ぶんだ。</p> <p>有限会社岡井博進堂<br/>代表取締役 岡井 良樹</p> | <p>ゆめ たね ま<br/>夢の種を蒔こう！</p> <p>岡三証券株式会社松阪支店<br/>支店長 谷田 和之</p>      |
| <p>行動は必ずしも幸福を<br/>もたらすわけではありませんが<br/>行動がなければ幸福はありません。</p> <p>株式会社きゅーとら<br/>代表取締役社長 清水 秀隆</p> | <p>希望に向かって<br/>自分の信じた道を</p> <p>桑名三重信用金庫</p>                    | <p>Also<br/>Challenge<br/>everything!</p> <p>株式会社玉城(グッデイ)<br/>代表取締役社長 早川 賢</p>                                     | <p>いいことばかりでは無い、<br/>でも次への一歩を踏み出せ!</p> <p>コスモスバリーズ松阪店</p>           |
| <p>自分を信じて挑戦しよう、<br/>輝く未来が必ず待っている！</p> <p>JAバンク三重</p>                                         | <p>何事もチャレンジ!</p> <p>株式会社ぜにや<br/>代表取締役社長 早川 賢</p>               | <p>自分は、自分、自分らしく</p> <p>総合保険の有限会社丸山<br/>取締役 山本 豊久</p>                                                               | <p>第三銀行は<br/>夢を追いかけるあなたを<br/>応援します!</p> <p>株式会社第三銀行</p>            |
| <p>大丈夫、ひとりじゃない。<br/>みんな繋がっている。</p> <p>株式会社社司<br/>代表取締役 松村 亜矢子</p>                            | <p>人に出来て、<br/>君に出来ないことなんて<br/>あるもんか。</p> <p>東邦液化ガス株式会社</p>     | <p>やりたいことを<br/>全力で!</p> <p>有限会社トータルインテリアタグチ<br/>代表取締役 田口 秀明</p>                                                    | <p>夢に力を。<br/>力に夢を。</p> <p>野村證券株式会社津支店<br/>支店長 後藤 健太郎</p>           |
| <p>夢・未来は誰にでも有る！<br/>あきらめずに進もう！</p> <p>パイロットインキ株式会社<br/>津工場長 太田 義之</p>                        | <p>一つ一つの経験が<br/>財産になる!!</p> <p>有限会社プラスサポート</p>                 | <p>Do your best !!</p> <p>株式会社松阪電子計算センター<br/>代表取締役 宮原 義隆</p>                                                       | <p>夢を持ち<br/>夢に向かって<br/>努力しよう</p> <p>有限会社松本水道<br/>取締役 松本 勉</p>      |
| <p>あせらず、ゆっくり、<br/>着実に!</p> <p>公益社団法人三重県医師会</p>                                               | <p>何にでもチャレンジ!<br/>未来が開くその言葉</p> <p>特定非営利活動法人<br/>三重県歯科衛生士会</p> | <p>君たちは未来の宝<br/>健やかに育て!</p> <p>一般社団法人三重県薬剤師会</p>                                                                   | <p>希望を持って<br/>がんばろう</p> <p>三重コニックス株式会社<br/>代表取締役 吉田 治伸</p>         |
| <p>未来に逃げないで、<br/>勇敢にチャレンジしよう!</p> <p>メナード青山リゾート<br/>統括支配人 山元 潤二</p>                          | <p>明るい未来を<br/>君たちの力で!</p> <p>有限会社山室石油<br/>代表取締役社長 山本 清</p>     | <p>あきらめなければ<br/>必ず道はある。</p> <p>理想科学工業株式会社<br/>理想三重支店 支店長 浦 雅裕</p>                                                  | <p>敬称略、五十音順</p>                                                    |

## 協賛企業・団体紹介

※五十音順

|                           |                     |                          |                    |
|---------------------------|---------------------|--------------------------|--------------------|
| 株式会社アーステック TAGAWA         | 伊賀上野ライオンズクラブ        | 社会福祉法人<br>伊賀市社会事業協会      | JForest 伊賀森林組合     |
| JAいがふるさと                  | ISET                | エコロプラス                   | OKAI (有)岡井博進堂      |
| 岡三証券<br>OKASAN SECURITIES | ふれあい・たいせつに<br>きゅーとら | 桑名三重信用金庫                 | グッディ<br>GOODAY     |
| Berry's<br>コスモスペリール       | JAバンク三重             | 食材工房 zeniya              | 総合保険の有限会社丸山        |
| 第三銀行                      | TSUKASA 株式会社 司      | 東邦液化ガス株式会社               | 有限会社トータルインテリアタグチ   |
| それ、野村にきいてみよう。<br>野村証券     | PILOT               | 百五銀行<br>FRONTIER BANKING | (有)プラスサポート         |
| MEC 株式会社松阪電子計算センター        | (有)松本水道             | (公社)三重県医師会               | 公益社団法人<br>三重県歯科医師会 |
| 特定非営利活動法人<br>三重県歯科衛生士会    | (一社)三重県薬剤師会         | 三重交通                     | コニックス株式会社          |
| メナード青山リゾート                | (有)山室石油             | RISO<br>理想科学工業株式会社       |                    |

本大会の開催にあたり、ご協賛いただきありがとうございました。

## 中学生のメッセージ2020（第42回少年の主張三重県大会）作文募集要項

### 1 目 的

「中学生のメッセージ」は、中学生が日頃感じていることや考えていることを広く県民に訴えることにより、青少年が自分の生き方や社会との関わりを考え、また、青少年に対する県民の理解・関心を深めることを目的として作文を募集します。

### 2 「中学生のメッセージ2020（最終審査会）」開催期日・場所

期 日 令和2年8月29日（土）

場 所 伊賀市文化会館さまざまホール（伊賀市西明寺3240-2）

### 3 主 催

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団・伊賀地区中学生のメッセージ実行委員会  
独立行政法人国立青少年教育振興機構

### 4 共 催

三重県・三重県青少年育成市町民会議連合会

### 5 協 力

三重県内青少年育成市町民会議

### 6 後 援

三重県教育委員会・伊賀市教育委員会・名張市教育委員会・三重県私学協会  
三重県小中学校長会・三重県PTA連合会・三重県教職員組合・NHK津放送局  
三重テレビ放送株式会社・株式会社中日新聞社

### 7 応募について

#### (1) 応募資格

県内の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある方。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。また、令和元年度在籍の3年生は応募できません。

#### (2) 応募内容

- ① 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
- ② 家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど
- ③ テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

#### (3) 応募方法

- ① 1人1点とし、未発表のものに限ります。但し、募集に先立ち取り組まれた作品や青少年育成市町民会議（以下、市町民会議という）等が主催する同様の大会において発表された作品は提出できます。

② 原稿用紙の記入方法は以下のとおりです。

ア. A4版400字詰め原稿用紙（別添（様式）参照）3枚半以上4枚半以下で縦書きに清書してください。A4以外の原稿用紙や枚数不足、枚数超過については、審査対象外となります。

※大会での発表時間は4分半～5分半となります。

イ. 1行目に作文のタイトル、2行目に県名・学校名・学年、3行目に名前、4行目以降に本文を書いてください。但し、学校名等が長い場合はこの限りではありません。

ウ. 本人直筆による原本（ワープロ不可・コピー不可・但し障がい等による場合は可）に提出してください。

エ. 原稿用紙にはHB以上の鉛筆ではっきり濃く記入してください。（審査のとき、コピーをするため判読不明な場合は審査できませんので、濃さについては厳守してください。）

オ. 原稿は、ホチキス止めをせずクリップ等で止めてください

|                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p style="text-align: center;">※枚数厳守で<br/>お願いします</p> <p style="text-align: center;">4枚半以下<br/>～<br/>3枚半以上</p> | <p style="text-align: center;">1行目<br/>タイトル</p> <p style="text-align: center;">2行目<br/>三重県</p> <p style="text-align: center;">3行目<br/>〇〇立〇〇中学校</p> <p style="text-align: center;">4行目<br/>〇年</p> <p style="text-align: center;">～</p> <p style="text-align: center;">本文</p> <p style="text-align: center;">～</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 応募作品一覧（別紙1）には、作文の基調となっている最も適当なテーマ1つを下記より選び記入してください。

|                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><u>基調テーマ分類</u></p> <p>「友達」、「家族」、「福祉・障がい」、「学校」、「勉強」、「生命」、「文化・伝統」、「地域・社会」、「環境」、「職業・労働」、「政治・経済」、「国際」、「平和」、「防災」、その他（                      ）</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

④ 各学校等において3点以内に選考し、応募作品一覧（別紙1）を添付のうえ、下記提出先に提出してください。

(4) 提出先・提出期限

- ・各中学校等は、令和2年6月5日（金）までに当該地域の市町民会議等に提出してください。市町民会議等は作品を取りまとめ、6月10日（水）までに公益財団法人三重こどもわかもの育成財団（以下、育成財団という）へ提出してください。
- ・市町民会議等の連絡先については、別紙2を参照してください。



(5) 審査基準

・論旨は以下のとおりです。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

(6) 入賞の選考

① 第1次審査会

第1次審査は育成財団にて行い、提出された作品の中から40人程度を選考します。

② 第2次審査会

第2次審査は学識経験者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する第2次審査会において行い、最終審査会で発表する14人を選考します。14人へは7月上旬頃に連絡します。決定後、やむをえず出場できなくなった場合は、次点の方を繰り上げる場合もあります。なお、14人以外の作品には地域優秀賞とします。

8 中学生のメッセージ2020（最終審査会）について

(1) 発表

・第2次審査会で選ばれた14人は「中学生のメッセージ2020」において、発表します。なお、発表では、パフォーマンス（写真を使用したパネル説明や小道具を使用する等）を取り入れてもかまいません。その場合は、準備の関係がありますので、詳しくはお問い合わせください。

(2) 審査

・大会当日、学識経験者、教育関係者、報道関係者、青少年育成関係者、育成財団等で構成する最終審査会で審査を行い、各賞を決定します。

(3) 審査基準

・論旨は第1次審査会と第2次審査会と同じです。  
・論調・態度は以下のとおりです。

- ① 共感と感銘を与えていたか。
- ② 説得力のある話だったか。
- ③ 熱意と迫力があったか。
- ④ 落ち着いて話していたか。
- ⑤ 聴衆に感動を与えていたか。

(4) 表彰

- ① 「最優秀賞」（1人）、「優秀賞」（3人）、「優良賞」（10人）を決定し、賞状と副賞を贈呈します。
- ② 「地域優秀賞」には、賞状と副賞を贈呈します。
- ③ 積極的に応募に取り組んでいただいた学校（全校生徒の50%以上とする）に「学校奨励賞」として、賞状と副賞を贈呈します。
- ④ 作品応募者全員に参加賞を贈呈します。

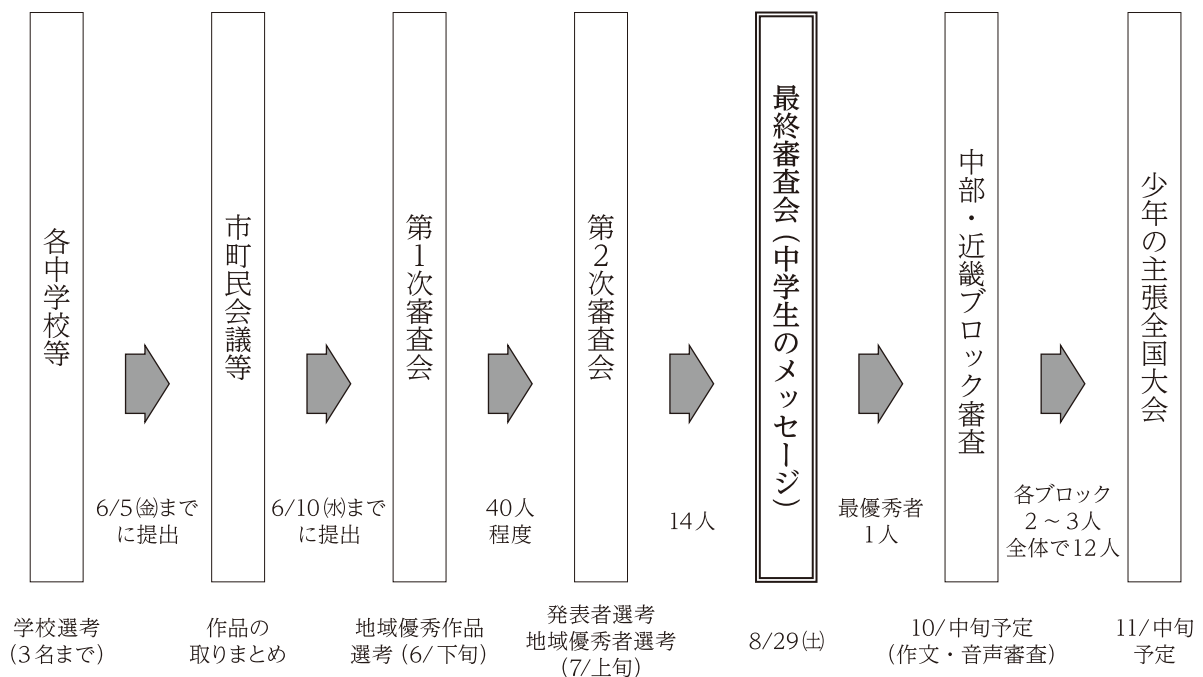
## 9 「少年の主張全国大会」への推薦

独立行政法人国立青少年教育振興機構が主催する「少年の主張全国大会」の出場候補者として最優秀者を推薦します。中部・近畿ブロック審査（作文・音声審査）でブロック代表者（各ブロック2～3人）に選ばれた場合は、11月中旬に東京都で開催される「少年の主張全国大会」において発表します。

## 10 その他

- (1) 応募作品の返却はしないのでコピーをして保管してください。
- (2) 「中学生のメッセージ2020」開催前、育成財団ホームページにおいて、発表者の紹介（学校名・学年・性別・名前・タイトル）をしますのでご了承ください。また、「中学生のメッセージ2020」後、結果を発表します。最優秀賞については、作品を掲載します。
- (3) 令和3年1月頃発表報告集を作成します。その中で掲載した作品及び写真については、ホームページ、広報誌等にも掲載することがありますのでご了承ください。

## 11 参考：応募から発表までの流れ



## 問い合わせ先

公益財団法人三重こどもわかもの育成財団

〒515-0054 松阪市立野町1291 中部台運動公園内

TEL：0598-23-7735 FAX：0598-23-7792 E-mail：ikusei@mie-cc.or.jp

## 「言葉を紡ぐ」

鹿児島県 霧島市立横川中学校 3年

池 島 音 羽

「音羽ってさ、最近調子乗ってるよね。偉そうにさ。まじ、ウザい。」

それは、突然のことだった。冬が、静かに足音を忍ばせながら近づいてきたあの日。放課後の教室に冷たい風が吹き抜けた。息ができなかった。ただ、茫然と立ち尽くすしか。心の奥を鋭い刃物でえぐられる。無理に笑おうとすると、頬が引きつった。私、今、どんな顔してるんだろう。真っ白な世界にただ一人取り残された。頭の中に浮かぶのは、疑問だらけ。ついさっきまで、仲良く話してたよね。どうして。どうして私が。私、そんなに調子に乗ってたかな・・・何か、悪いことしたかな。

その日からすべてが変わった。ひそひそ話をする友人の姿を見ては、その場から逃げ出した。怖かったから。きっと自分のことをいってるんだろうって思った。そそくさと教室を出る私の背中に浴びせられた言葉。

「ほんと何なのけ。ウザいんだけど。」

誰かに相談したくてもできなかった。相談したら、また何かいわれるんじゃないかとおびえる日々。ベッドに横たわって意味もなく、天井を眺めた。頭の中の何かがプツツと切れた。気づいたら側に母がいて、私はすべてを打ち明けた。瞬きもせずに私の話を聞く大きな瞳に泣きじゃくる私の姿が映っていた。「今まで辛かったね。あんたはすぐに一人で抱え込む癖があるから、誰にも相談できなかったんでしょ。今、お母さんに言った気持ちをほんの少しでもいいから相手の子に伝えてごらん。何も変わらなかったら、また、お母さんのところに戻ってきなさい。」

夕飯に出されたお味噌汁を一口すすると、心の中に溜まっていた何かがふっと抜けていった。久しぶりに感じたこの暖かさ。でも、どうやって伝えたらいいの。直接、言える勇気なんて私にはない。だったら、どんな形であれ、自分の気持ちを伝えなきゃ。だって、私には帰って来られる場所があるんだから。

その夜、私はスマホを握りしめた。LINEを開き、ずいぶんと更新されていない画面を見つめ、自分の思いをしたためた。何度も何度も文字を打ち直した。私が悪いのなら何がいけなかったのかを教えてほしいということ。陰で言われるのはとても辛いということ・・・。送信ボタンを押す手が震え、どれだけの時間が経っただろう。これがきっかけで何かが変わるというのだろうか。

翌朝、既読のサインは付いたが、返信はなかった。学校についてもいつもと変わらない景色がそこにあった。「ごめん。」背中越しに聞こえた言葉。それは突然だった。伝わったんだ。少しずつ、私の世界に色が戻ってきた。「何か、気に入らないことがあったら、教えてね。」

途切れ途切れの私の言葉。

スティーブ・ジョブズ氏は「想いを形にして、想いを言葉にして、想いを伝達する。いくら素晴らしいものを作っても伝えなければならないのと同じ。」と語る。SNSは諸刃の剣。時に人を傷つけるが、人を

救うことだってある。世の中は情報化社会だ。これから先も、私たちは情報の渦の中で生き抜くことになる。何を学び、どんな力を身につけなければならないか。今、文科省が勧める「GIGA スクール構想。」この目的は、一人一台のコンピューターと、一人一人の個性に合わせた学習の実現だと言われている。多くの情報を活用する力が私たちに求められているのだ。だが、その基盤にあるものは何だろう。どれだけ、情報化の波が押しよせようとも、人間が人間としてあるためには、想いを言葉に紡ぎ、相手に伝えることではないか。そして、人と人とがつながることで、新しい時代を築けるのではないか。帰宅した私を母が笑顔で迎えた。

「何か食べたいものある。」

私は迷わず答えた。

「お味噌汁。飲みたい。」



中学生のメッセージ2020  
(第42回少年の主張三重県大会)

発表報告集  
令和3年1月

公益財団法人 三重こどもわかもの育成財団  
〒515-0054  
三重県松阪市立野町1291 中部台運動公園内  
TEL 0598-23-7735  
FAX 0598-23-7792  
E-mail ikusei@mie-cc.or.jp



# 中学生のメッセージ2020 開催案内 デザイン画入賞作品紹介

地元伊賀地区の中学生を対象にデザイン画を募集し、デザイン画入賞作品展を開催しました。



デザイン画優秀賞：「中学生、私の気持ち。」  
名張市立名張中学校 3年 奥野 志保さん



大会当日の展示の様子



デザイン画優秀賞：「伝える想い」  
名張市立名張中学校 3年 柴 千都世さん



デザイン画優秀賞：「未来への翼」  
名張市立南中学校 3年 東出 唯花さん